

イベント取材の夢が消えた後（その 12）

神谷 直亮

「第 1 回 XR 総合展」

東京都の 23 区と 6 市が 4 月 12 日から 5 月 11 日まで「まん延防止等重点措置」の適用対象区域となった。緊急事態宣言発令に至る前の段階で、感染症の拡大を押さえるためものとの位置づけである。イベントは、停止ではなく制限の対象となっている。また、住人の外出については、自粛要請ではなく指定区域では不要不急の外出・移動をしないよう要請された。この後、急遽 4 月 25 日から 5 月 11 日まで緊急事態宣言を発令するに至り、さらに 5 月 7 日には 5 月 31 日まで延長が決まった。

このような環境下で「第 1 回 XR 総合展」(主催:リード エグジビション ジャパン)が、4 月 14 日から 16 日まで東京ビッグサイト南館で開催されることになった。昨年まで「先端デジタル テクノロジー展」の「VR/AR/MR ワールド」として行われていた展示コーナーを独立した「XR 総合展」

に格上げしたものである。高齢者で楽しんでる中の筆者は、少々迷ったが興味津々の状態に陥り思い切って行ってみる決心をした。

期待通り「XR 総合展」の会場では、ピコ・テクノロジー、クリーク&リバー、明電システムソリューション、ハートコア、ビーライズなどが最新の VR デバイスやシステムを揃えてリアルなデモで会場を盛り上げていた。

ピコ・テクノロジー社は、3 種のヘッドセット、「PICO G2 4K」「PICO G2 4K S」「PICO NEO 2」のデモコーナーを設営して来場者の注目の的になった。「PICO G2 4K」「PICO G2 4K S」はスタンドアロン 4K VR で、ディスプレイ上の画素密度を 818ppi まで向上させたモデルである。CPU には Qualcomm 社製の Snapdragon 835 を採用しており、高解

像度のスクリーンサイズは 5.5 インチを誇る。「G2 4K」と「G2 4K S」の違いは、後者には PU クッションに代わる PU レザーフェイスパッドが付いている。また、「G2 4K」はメモリーが 32GB ROM + 256GB microSD なのに対し、「G2 4K S」は 128GB ROM + 256GB microSD を誇っている。

最新の「PICO NEO 2」については、「3840 x 2160 の高解像度スクリーンでの再生、Snapdragon 845 を搭載、6DoF トラッキングコントローラー付き、PC とのワイヤレス接続など、すべてを実現した高精細オールインワン・スタンドアロン型 VR ヘッドセット」と力説しながら売り込みに余念がなかった。

今後の次世代ヘッドセット開発状況を聞いてみたら、「5 月 10 日に NEO 3 を発表するので待ってほしい」と言うばかりで、新機能については何も聞き出せなかった。恐らく画素密度を 818ppi から 1000ppi くらいまでアップするのではないかと思う。

「クリエイティブとテクノロジーの力で VR・AR・MR の未来を創る」をモットーに掲げたクリーク&リバー社は、同社のスタンドアロン型ヘッドマウント・ディスプレイ「IDEALENS K4」に加えて、中国で高い評価をえているという「SKYWORTH S1」ヘッドセットを紹介して来場者の注目の的になった。説明員によれば、「SKYWORTH 社の S1 は、8K 高解像度の VR 映像をそのまま再生できるスタンドアロンヘッドセットで、かつてないほどのリアルな VR を実現する」という。仕様を聞いてみたら「Samsung Exynos 8895 8Core+ SoC プロセッサ搭載、8K ハードウェアデコード、4K ディスプレイ、72Hz リフレッシュレート、3DoF、視野角 105 度、画素密度 801ppi」との回答であった。実際に装着してみたらチベットで撮影したという 8K 高画質コンテンツが画面いっぱいに表示され印象的であった。

一方の「IDEALENS K4」は、



写真 1 ピコ・テクノロジー社は、「PICO NEO 2」のデモコーナーを設営して来場者の注目の的になった。



写真 3 ウィザプライは、同社自慢のドライビング・モデルと「VIVE COSMOS」ヘッドセットを用意して来場者に搭乗を促していた。



写真 2 アイロック社は、最先端のドライビング・シミュレーターを出展して人気を呼んでいた。



写真 4 チェコの VRengineers 社は、RGB 8K 水平解像度の VR レンズを搭載した「XTAL」ヘッドセットを紹介して注目を集めた。

Snapdragon 835 プロセッサを搭載し、4K ウルトラ HD 高画質と高処理能力によるダイナミックな VR 映像を実現していた。「S1」と比較してみたらリフレッシュレートが 75Hz、視野角 110 度でわずかに上回るが、画素密度は 773ppi でやや劣ることが分かった。

さらに同社のブースでは、教育・訓練用 VR を顧客が容易に制作できるソリューション「ファスト VR」と現場最前線で働くフロントラインワーカーのためのデジタル化支援ソリューション「ATHEER (アシアー)」も紹介された。

明電システムソリューション (本社：静岡県沼津市) は、「3 軸 VR シミュレータによる安全ソリューション」と「AVR (Advanced Virtual Reality) を活用した工場・作業現場の実機訓練 VR」を売り込んでいた。前者は、生産・工事現場で起きる事故を体感しながら危険な要素をチェックできる安全教育コンテンツである。後者は、VR 空間内で 3D CG と実写映像を重ね合わせ、自分の手に持ったコントローラーを実際に見ながら操作を実現するのが特色と言える。このためヘッドセットに 3D 立体視カメラを搭載している。

同社はさらに「劇的に効率 Up!」を謳った「出張 VR 集合教育」の売り込みも行っていった。一人のインストラクターに対し、同時に最大 30 名まで座りながら安全に VR 体験ができるシステムになっている。バッテリー、WiFi ルータ、充電器をオールインワンで実現する専用のキャリーケースも用意しているという。

ハートコア社は、「VR360」と名付けた 3D-VR コンテンツサービスの売り込みに余念がなかった。「Matterport」と呼ぶ 3D カメラで撮影した 360 度 VR 空間映像をウェブ上で有効に活用できるサービスである。活用事例としては、「歩き回って体験できるオフィス見学会や大学のキャンパス見学会」、「キャラクター画像も表示できるメーカー製品の展示会」「イベント会場でのリアル空間撮影 + α」などを挙げていた。ビーライズ (BeRIZE) 社 (本社：広島県広島市) は、「VR 安全シミュレータ」「救急医療教育用 VR ソフトウェア」「アバターで参加できるバーチャルイベント」「メンタ

ルヘルスを支援するマインドフルネス VR」「能動的に学べる JobStudio VR」など多種多様な VR パッケージを紹介した。「VR 安全シミュレータ」については、「フォークリフトシリーズ、はしご・脚立・足場台シリーズ、工事現場シーズの 3 種があり、いずれも VR で体験できる」と、座学から体験への教育に最適な点を強調していた。

VR ドライビング・シミュレーターに関しては、アイロック (IROCK) とウィザブライ (WIZAPPLY) の両社が競演した。名古屋市内に本社を構えるアイロック社は、今回エントリーモデルを 2 台、4 軸レーシングモデルを 1 台、7 軸プロモデルを 2 台出展していた。エントリーモデル (2 軸機) をトライしてみたら、中低速域の走行を実にリアルに再現していた。アテンダントによれば、「コストを押さえた小型モデルで人気がある」とのことであった。

ウィザブライ (本社：大阪市) は、2 軸家庭向けエントリーモデルを 2 台、4 軸遊戯施設向けスタンダードモデルを 1 台、6 軸研究開発向けハイエンドモデルを 2 台ブースに並べていた。「VIVE COSMOS」ヘッドセットを使用して搭乗するハイエンドモデルに人気が集まって長い列ができていた。

AR のデモで目立ったのは、AVR ジャパン社だ。同社は、2016 年に設立され産業向けの XR ソリューションを提供している。今回の会場では、「VUZIX M400」スマートグラスを使用して、ハンズフリーでコミュニケーションや指導を行うことができるウェアラブル AR 作業支援ソリューションを紹介した。

MR の分野の出展者は、南国アールスタジオ、住友商事マシネックスであった。

南国アールスタジオは、職場と家、会議室と現場、人と人を距離や時間を超えて一つにつなげる「WHITEROOM 会議システム」のデ

モを実施して注目を集めた。「HoloLens2」ヘッドセットによる最先端の MR を駆使して、画面ではなく空間を遠隔地の相手と共有してシームレスなコミュニケーションを実現するのが売り込みのポイントである。ブースの説明員によれば、「多彩な機能と使いやすさにこだわった。専用の会議サイトにログインすれば、アバターとして現れる参加者とボイスチャットで会話をしながら、アップロードした 3D モデルやドキュメントなどの素材を空間上で操作・共有ができる」と説明していた。

住友商事マシネックスは、ポケット・クエリーズと共同で開発したソフトウェア「Faci-Lite」の売り込みに余念がなかった。「HoloLens2」を活用する現場ソリューションで、「例えば、ビルメンテナンスにおける現場の種々の課題をコロナ対策・3 密回避で解決できる」と説明していた。

最後に、今回の会場で目に付いた珍しい 2 種のヘッドセットに触れたいと思う。1 種は、チェコの VRgineers 製の「XTAL」で、「特許取得済みの非フレネルと組み合わせたフル RGB 8K 水平解像度の VR レンズを搭載」「180 度の広い視野を持つ改良されたレンズで完全な没入感を体験できる」「210Hz で動作する統合カスタムアイトラッキングを実現する」の 3 点が特色である。

もう 1 種は、ASK 社が売り込んでいたフィンランド製「バルヨ (Varjo) VR-3」で、4K 高品質のプロ級ヘッドセットに仕上がっている。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド 4WD

5名定員
1.2m 径・自動捕捉アンテナ搭載
車高 2.2m 以下 (地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール 4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IP コントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

communications k.k.